

補 おまけ：使える<構文パターン>を増やす

■ 簡単なレビュー

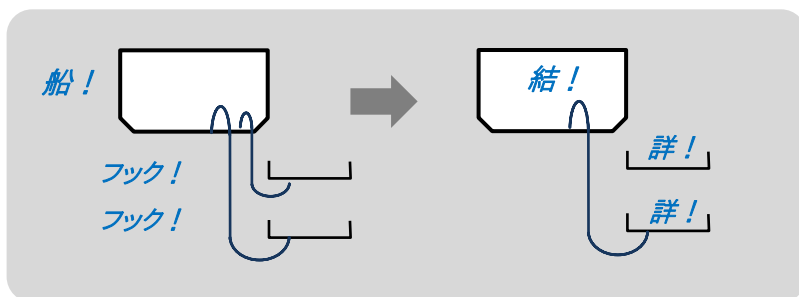
K/H システムでは、英文一文一文に個別に慣れていくことに加え、何よりも、英文の「特徴的な構造」「頻出するパターン」に着目して慣れておくことが、実戦で正確に、しかも瞬時に聞き取り、話せるための大きな力となると考えています。「初めてのK/Hシステム」では、まず、英文の最も根本的な構造的特徴と、そこから派生する英語の感覚を以下のようにとらえて、慣れる練習をしました。

英語の構造的特徴 船フックフック！

1. 英語の文は、**まず中核となる「船」を作る**
他動詞と自動詞で作り方が違う
2. その後ろに**「フック+名詞(or 節)」で情報を足していく**

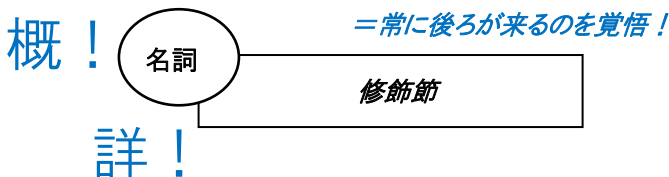
英語の意味的特徴 結+詳+詳！

1. 構造的特徴ゆえに、**結論的な情報がはじめに来る**
2. その後ろから、**結論を説明する詳細情報が足されてくる**



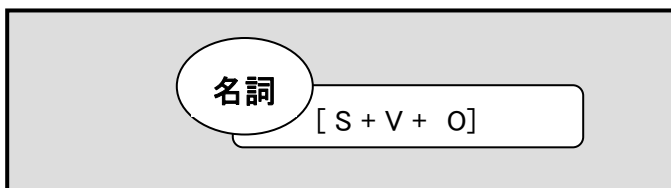
参考資料：使える<構文パターン>を増やす

さらに、その上につけてくる「パターン」としては、「頻出するのに、私たち日本人が特に苦勞するパターン」として、以下の形をあげました。「名詞＋修飾節」のパターンでした。情報の順序に注目してその感覚をとらえると「概＋詳細」が特徴でした。



このパターンの代表格として、特によく出てくる「関係代名詞」の形をまず取り上げて慣れてもらいました。

この、「概＋詳細」の感覚の「名詞＋修飾節」の典型的パターンである関係代名詞の構文パターンを図にすると、次のようになります。

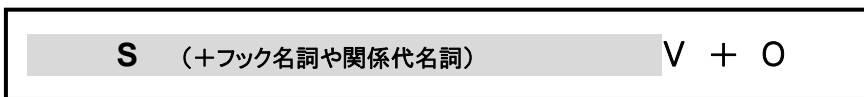


さて、ここでは、あとふたつ、こうした「頻出するのに、私たち日本人が特に苦勞するパターン」を紹介しておきます。こうした、私たちを悩ませる、典型的な英語の文のパターンに慣れていくことで、実戦で正確に、かつ、瞬時に英語を理解し、話せる力を、効率よくつけていくことができます。

補1 頭でっかちの構文パターン

主語に修飾語がついて、主語と述語動詞が離れてしまう構文パターンです。このかたちも頻繁に出てきますが、私たちが大変不得意とする構文パターンです。しっかり聞き取れて、しっかり使えるようになっておくと、絶対に得なパターンです。

慣れておくべき構文 [頭でっかちの文] = 述部をしっかりと待つ！



次の例文を、構文(主語と述語)を意識しながら読んでみましょう。

The meeting with ABC Company on a new project yesterday **went** quite smoothly.

この文は、主語が the meeting ですが、そのまま述語動詞の went に行かずに、前置詞のフックで「どんなミーティングか」をまず説明していますね。その説明が yesterday までで終わってから、はじめて went という述語動詞が出てきます。

構文分析すると次のようになります。



頭でっかちの構文パターンは、主語を丁寧に説明してから最後に動詞が来る感覚ですから、日本語の発想の順に近いので、スピーキングでよく使いた

くなるパターンです。ところが、いざ使ってみると、途中で文の構造が自分でも見えなくなって、文をちゃんと完成できずに終わってしまう、ということになりがちなのです。主語を修飾しているうちに、何が主語だったか忘れてしまって、主語にマッチした述語動詞が入られなくなって文がグチャグチャになってしまう。あるいは、仕方なく文を完成するのをあきらめて、別の文を作り直す。文としてきちんと仕上げようとすると、なかなかむずかしい形です。

何よりも、聞き取りで、頻繁に出てくるこの構文パターンにかなり苦労させられます。たいていは、頭でっかちの部分で苦労しているうちに述語動詞が見抜けなくなって、文のメッセージが取れずに終わってしまう、ということになります。よく出てくる形ですから、この「頭でっかちの構文パターン」にしっかり慣れて、落ち着いて正確に聞き取れる感覚を作っておくことが重要です。聞き取りの時のコツを少し説明しますね。

「頭でっかちの構文」の聞き取りの感覚

the meeting が主語だと思った時点で、その the meeting がどうしたの？と述語動詞が続いて出てくる(「結+詳+詳」)ことを、当然、期待します。ただ同時に、the meeting とだけ言われても「なんのミーティング」か分からないわけですから、その詳細をまず説明してくる可能性もある(「概+詳細」)と予想しながら聞きます。道はふたつ。

さてその頭で、次に with ABC Company と聞こえた時点で、the meeting を詳しく説明する修飾(「概+詳細」パターン)の方が来た、とスイッチを入れます。スイッチを入れて「概+詳細」で聞き取りを進めながら、同時に、「結+詳+詳」の大きな枠組みの感覚も忘れずに、the meeting が「どうしたのかな？」という意識で、「ミーティングがどうした？ミーティングがどうした？」と述語動詞が出てくるのを楽しみ(?)に待ちながら聞き進みます。主語部分に修飾が入る「頭でっかち」の構文パターンでは、聞き取りの時には、二つの意識(「結+詳+詳」と「概+詳細」)を同時に働かせることになりますね。

以上、スローモーションで「頭でっかち」の構文パターンを聞き取る感覚を説明しました。「頭でっかちのパターン」を身につけるには、この感覚をまずは

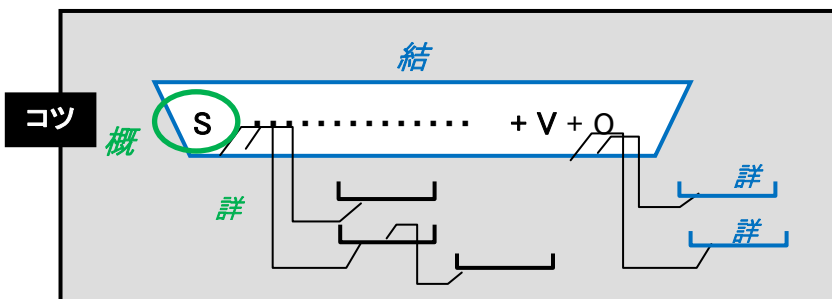
参考資料：使える<構文パターン>を増やす

理解して、その次に、それが「素早くできるようになるための繰り返し練習」あるのみです。

繰り返し練習をする時ですが、まず最初に目指すのは、①「結+詳+詳」と「概+詳細」のそれぞれの構造をまず意識する(見抜く)感覚です。それがあ
る程度できてきたら、次に、②後ろに修飾語がいくらついたとしても**主語を絶対**
に忘れないようにすることが、コツになります。それができると、述語動詞
も自然にしっかり意識できるようになります。聞き取りでもスピーキングでもコ
ツは同じです。

視覚的な図にすると次のようになるので、これを頭に焼き付けておきましょう。

「頭でっかち構文パターン」の視覚図



「頭でっかちの構文」のパターンに慣れるための例文

構文を分析しながら、2回ほど読んでみましょう。

(1) The agenda / of next week's teleconference / will be emailed / to all participants / in a few days.

⇒ **The agenda.....will be emailed**
of next week's teleconference to all participants
in a few days.

アジェンダですが / 来週の電話会議の / は、Eメールされます / 参加者全員に / 数日中に

(2) The date / of the next meeting / with ABC Corp. / will be determined / at a later date.

⇒ **The date.....will be determined**
of the next meeting at a later date.
with ABC Corp.

日程ですが / 次のミーティングのね / ABC 社との / は、決めることになって
います / 後日改めて

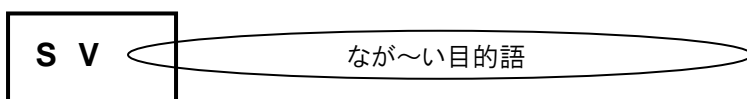
(3) The chart / showing the breakdown / of the cost / is attached / at the end / of the report.

⇒ **The chart is attached**
showing the breakdown at the end
of the cost of the report.

チャートですが / 内訳のね / コストの / は、添付されています / 最後にね / 報告書の

補2 「主語＋動詞＋なが～い目的語」 ＝後ろでっかちの構文パターン

I think など、主語と動詞がすぐに終わってしまって、その後ろの目的語がすごく長くになってしまうパターンです。



たとえば、次の文を読んでみてください。

Sarah thought [that it might be a good idea to talk to Matt about her concerns about our current sales campaign.]

問題は、最後まで読んだ時点で、はじめの Sarah thought という「主語＋述語動詞」の部分覚えていたかどうかです。日本語の発想で考えてしまう私たちは、ふつう、最後に「・・・とサラは思った」と結ばれるのに慣れきっていますよね。そうすると、「サラは思った・・・」とはじめに来て、その次に「現在やっているセールスキャンペーンについての懸念について、Matt と相談した方がいいかもしれないなことを」というふうに来られると、いつもの感覚からすると逆順です。思わず、はじめに出てきた重要な情報である「サラは思った」が、過ぎた過去のできごとのように忘却の彼方に忘れ去られてしまうことが多いのです。まだ thought ぐらいなら、忘れても情報としてはあまり影響はないのですが、もし、Sarah didn't think (サラは～とは思っていなかった)や Sarah didn't agree(サラは～に賛成していなかった)など、否定的な情報がはじめに来た時にこれを覚えていないと、次に出てくる「なが～い目的語」の情報が取れたとしても、意味をまったく取り違えてしまうことになります。また、時制も忘れてしまって、もう済んだことなのかこれからのことなのかを取り違えてしまう、なんてこともよく起こります。

参考資料： 使える<構文パターン>を増やす

一方、スピーキングの場合だと、I think や I am wondering や I agree などははじめに言い捨ててしまって、次の目的語の部分で改めて文を作ればいいので、あまりむずかしくはありません。一つむずかしいところがあるとすると、たとえば「その計画はうまくいかないと思う」と言いたい時に、日本語の発想のまま、I think that the plan will not work.とってしまうことでしょうか。文法的には正しいし、こういういい方もしないわけではないのですが、普通はこうは言いません。みなさん、どこが不自然だかわかりますか？

普通は、次のように言います： I don't think that the plan will work.

肯定か否定かを、はじめに明確にする方が英語として自然なのですね。この話し方ができるかどうかです。そのためには、肯定か否定かをまずは決める感覚を養う必要があります。

まとめると、この「後ろでっかちの構文パターン」は、聞き取りの時に大いに苦しめられるパターンです。文のメッセージの結論と肯定・否定が一瞬で終わってしまい、その後ろに来る目的語のなが〜い文の聞き取りに集中しているうちにはじめの重要な部分を忘れてしまいます。はじめの「主語・述語動詞」のパッケージを、肯定・否定と時制(過去・現在・未来など)も含めて覚えておける感覚を身につけることが重要です。

具体的な英文を見てみましょう。まずは、その人の考えや感じ方や物事の根拠を述べて、次にその考えや感じ方の中身が来ます。

考え・感じ方・根拠

[その中身]

I heard [that you are doing great on that project.]

聞いたんだけど〜、そのプロジェクトで君は頑張ってるんだってね

I didn't realize [that the report needed to be submitted this week.]

分かってなかったですね〜、レポートは今週提出する必要があったってのは

I never would've dreamed [that I'd work in foreign countries.]

夢にも思ってたかったですね〜、私が、海外で働くことになるってのは

参考資料： 使える<構文パターン>を増やす

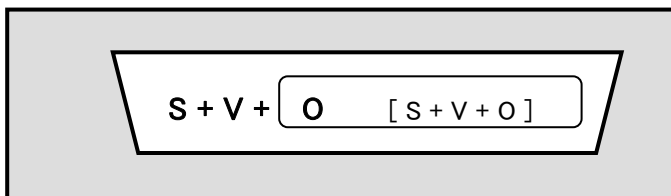
Our records show [that we haven't received your payment yet.]

私たちの記録が示しているんですが、 まだ、お支払いを受け取ってませんね。

(記録によれば、 お支払いはまだのようですね。)

視覚的な図にすると次のようになるので、これを頭に焼き付けておきましょう。

「後ろでっかちの構文パターン」の視覚図



次のページに、この構文パターンに慣れるための例文がありますので、読んで [S+V] の部分を頭に残せるかトライしてみましょう。

「後ろでっかちの構文」のパターンに慣れるための例文

主語・述語動詞のペアを忘れないようにして、構文を分析しながら2回ほど読んでみましょう。

(1) **We believe** that we can develop English skills effectively with this method.

⇒ **We believe**
that we can develop English skills effectively
with this method.

私たちは信じています 英語力を効果的に伸ばせるって、この方法で

(2) **The numbers show** that our sales are slowing down in the Asian markets.

⇒ **The numbers show**
that our sales are slowing down
in the Asian markets.

数字が示していますね～、売上げが減速しているって、アジア市場で

(3) **I found** in this Japanese company that the position basically gave me the opportunity to learn.

⇒ **I found** (in this Japanese company)
that the position (basically) gave me the opportunity
to learn.

(この日本の会社で)分かったんですよ～、役職は単に学ぶ機会を与えてくれるだけだって

参考資料：使える<構文パターン>を増やす

以上、2つの重要な構文パターンを紹介しました。

まとめると、まず、すべての土台として、「結+詳+詳」が基本にあるんですね。そのうえにのってくる「パターン」や、ちょっとした基本の「バリエーション」に慣れておくことが、実戦での正確な理解と瞬発力に大きな力となるんです。

そのために、本ではまずはじめに、「名詞+修飾節」の構文パターンの代表格、関係代名詞の構文パターンを紹介しました。英語の感覚としては、「概+詳細」の情報の順序でしたね。何度も言いますが、「結+詳+詳」の感覚の次に最も重要な英語感覚です。

次にここで紹介したのが、「頭でっかちの構文パターン」でしたね。「結+詳+詳」と「概+詳細」のコンビネーションともいえるパターンです。最後は、「後ろでっかちの構文パターン」で、主語と述語動詞(結論部分)がはじめにサッと短く出てくるだけで、その後ろの目的語が文で長〜いために、いつの間にか最初の結論部分を忘れてしまいがちな構文パターンでした。

この他にも、日本語の感覚で育った私たちが苦勞する英語の「構文パターン」はたくさんあります。自分でも、「よく出て来るかたち」にアンテナを張って、似たものを集めるなどして「聞き方」「文の組み立て方」を工夫して慣れておくクセをつけていきましょう。英語を身につけていく効率が、大きく上がるはずですよ。

⇒今後の学習

K/Hシステムでは、この3つのパターンをはじめ、その他の英語の特徴的なパターンを身につけるための強化ドリルを多数作っていますが、現在、公開講座と長期企業研修でのみ使用しています。逐次、販売も考えています。WEBでご確認ください。